

昭和で学んだことを “いま”に生かして

佐々木 由香

株式会社パレオ・ラボ

9年間在籍した昭和女子大学を修了した1年後、現在の会社入りました。会社は、行政や大学などで実施した遺跡発掘調査で発見された遺構・遺物や堆積物の自然科学分析を行うことを主な業務としています。一口に自然科学分析といっても、年代測定や、材質分析、種実や木材の同定、さらには堆積物のボーリング調査と多彩です。また単に分析するだけでなく、その結果を過去の歴史の中で位置づけるような考察がしばしば求められます。

私の仕事は、分析依頼をする方と直接お会いし、サンプリングを行ったり、目的に沿った試料を受け取ったり、報告することが主体です。私自身は分析をしていませんが、依頼者と直接話すので、すべての分析内容についての理解、それを考古学的、あるいは生態的にどのように位置づけられるのかといった研究面の知識も必要で、仕事内容は多岐に渡ります。

今年で入社4年目になりますが、まだまだ覚えることが多く、ひとつひとつの依頼が勉強になっています。会社でのやりがいは、通常の担当業務をこなせば、研究活動を自由に行って良いという点です。私は縄文時代の植物利用に興味を持っていますが、学会への発表等は金銭的なことも含め、会社が支援してくれ、研究活動が仕事の評価にもつながるので励みになります。

学部で在籍していた日本文化史学科と、大学院の生活機構研究科は、特定の学問領域にとどまらず、幅広く多彩な分野について学べることにひとつの特徴があると思います。在学中は、主に考古学のゼミや授業を受講しましたが、文化財科学・保存修復、歴史学、地理学、民俗学、服飾学などさまざまな分野に触れました。それらが、仕事に直接的に、あるいは間接的に関わることが多く、広く学んで良かったと実感します。また、私自身も植物学と考古学の中間領域に興味を持ち、他分野の仲間が多くできたことも、在学中に学んだ学際的な授業の影響が大きかったと思う日々です。

(2001年度生活機構学専攻単位取得満期退学)